

道博協ニュース

発行所 北海道博物館協会
事務局 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2
北海道開拓記念館内
電話/011-898-0456・FAX/011-898-2657

平成12年度ミュージアム・ マネージメント研修会から

道東三管内博物館施設等連絡協議会の主催で開催された今年度のミュージアム・マネージメント研修会（平成12年10月25日～26日、釧路市）については本紙前号（第70号）に簡単に報告したが、今回は、その一部、第1日目の基調講演「教育と社会～博物館への期待～」(講師：北海道教育大学教育学部釧路校教授高嶋幸男氏)について紹介してみよう。

「学校教育と博物館とのかかわり」、古くて新しい問題であるが、近年は平成14年度から新設される「総合的な学習の時間」とのかかわりから博物館への期待が一層高まり、大きな問題になりつつある時でもあり、時機を得たテーマであった。

釧路校の学校教育講座で教育内容論、教育方法を研究分野とされている高嶋先生の講演は、新学習指導要領の概要と特徴、とりわけ「総合的な学習の時間」について、根釧地方を舞台とする先行・試行実践を紹介しながら、学校と博物館・社会教育施設等との連携のあり方について次の4つの内容で進められた。

1. 『はじめに～近年の教育政策の経過と課題～』

1980年代以降の急激な社会の変化に対応して提起された生涯学習、学社連携・学社融合論、学校5日制（平成4年）、そして「総合的な学習の時間」の新設を盛り込んだ中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」（平成8年）、教育課程審議会答申（平成9年）、それを受けた（第6回）学習指導要領の改訂（平成10年）にいたるまでの経過について解説された。

2. 『新学習指導要領と「総合的な学習の時間」』

「新学習指導要領の概要と特徴」、「総合的な学習の時間のねらいー「生きる力」の育成」、「学習観・学力観の転換」に分け説明された。新学習指導要領の基本的ねらいは、平成14年度から完全実施される学校5日制をふまえ、教育内容を厳選し、年間授業時間数を3割削減、基準の大綱化・弾力化と学校の裁量幅の拡大（特色ある教育・特色ある学校づくりの推進）にある。その目玉として新設される「総合的な学習の時間」のねらいは、ゆとりの中で一人ひとりの子どもに「生きる力」（自ら課題を発見し、考え、判断し、問題を解決する能力、自律性、豊かな人間性やたくましく生きるための健康と体力）を育成することにある。その課題は、「横断的・総合的な課題」、「児童の興味・関心に基づく課題」、「地域や学校の特色に応じた課題」などであるが、従来の伝達型教育から児童・生徒が「自ら学び考える力を育てる追求型教育」への転換をはかるためにも、学校の実態に応じて自由に課題の設定ができることとされることから、「地域」を舞台とすることが多くなることが想定される。児童・生徒の求めや願いに基づいてテーマが決まり、それを児童・生徒が主体的に追求する過程で学習が広まり深まっていく追求型



会場風景

の学習が「総合的な学習の時間」に期待されている。

3. 「『総合的な学習の時間』と博物館／社会教育施設等」

「総合的な学習の教育実践と“地域理解”」
「学社融合と博物館／社会教育施設の役割の重要性」から説明された。学校のあり方が、学校で「閉じる」のではなく地域に飛び出し、地域の自然や歴史・文化・社会そして人々と交わりながらの学習が重要となることから、学校外の教育的機能をもつ人々と社会的な施設が、学校教育と「新たな結びつき」を求められ、学校も博物館・社会教育施設も「変わる」ことが求められている。

地域を舞台とした先行実践例として道教育大学附属釧路小学校（「動き出す自然、そして私～生き物の様子を見つめていこう」ほか）、同附属釧路中学校（「うるおいのあるくくしろ」を求めて）、「他都市を見つめて」、別海町立中春別小学校（「春別川はどんな川なのだろう」）、釧路市立城山小学校、釧路市立遠矢小学校（「釧路湿原と遠矢」）の場合が紹介された。

4. 「おわりに一博物館／社会教育施設に望むこと一」

「総合的な学習の時間」を念頭に、現職の教員

の要望も含め、博物館を中心とする施設や学芸員に望むこととして、以下の諸点を指摘された。

「展示中心の博物館からハンズ・オン（体験する）博物館になること」、「博物館の中に、学習者に活動や発表の場を提供すること」、「学芸員は、学習者に「教える」（伝える）役割から「聞き手」になること。学習者が何を望んでいるかを聞き、学習意欲を創る支援活動に力を入れてほしい」、

「博物館、学芸員の情報がほしい（どんな資料があるのか、どんな学芸員がいるのか）」、「学習者向け相談コーナー、普及書コーナーの設置」、「教員向けの1週間程度の研修講座の開催」、「学芸員の学校訪問。実物をもってどんどん来てほしい。」「博物館での学校の授業」、「博物館事業を学校で」

以上、1時間半の講演は今後地域博物館が学校教育とどのようにかかわっていくかを考える上で、得るところが多かった。恒常的事業費の不足、人員不足の中におかれている博物館施設が具体的に学校教育との連携強化をはかっていくには多くの問題があり、個々の施設の事業活性化につながる行財政の充実がとくに望まれる。北海道博物館協会としても大きな課題である。

（北海道開拓記念館事業部主任学芸員 丹治輝一）

学芸職員部会 —平成12年度の活動から—

年1回、各地域で開催される学芸職員研修会は会員ならびにその地域の人たちにとって、さまざまな情報と博物館体験を得る場です。昭和53（1978）年3月10日、道立近代美術館において第1回目の研修会が開催されました。特別講演「自然と風土」（北川芳男さん）、シンポジウム「北海道博物館百年を考える」（座長：佐藤一夫さん）という内容でした。

通算22回目の学芸職員研修会が、後志管内余市町で平成12年10月12日・13日の2日間にわたり開催されました。「人」と「情報」の溜り場、それが博物館の原点と考えます。改めて博物館の活動って何だろう、そのことを考えてみようということを実践活動報告を主とした研修会を設定しました。テーマは『地域学のススメ＝しりべしー地域展望＝』でした。

事例報告に先立ち、北星学園大学教授辻井達一さんの講演「北大植物園の話」がありました。植物園ー野外博物館の在り方を通して、博物館の地

域における基層性をお話くださりました。印象に残ったことは「それらしく演技することが必要ではないでしょうか」ということでした。展示と観客との間にまだまだ違和感があることをその理由の一つとしてあげられました。引き続き、小樽市教育委員会石川直章さん「旧日本郵船株小樽支店こども解説員のとりくみ」、西村計雄記念美術館南部亜矢子さん「美術館・ワークショップ最近の事情」、倶知安町百年の森ファンクラブ赤塚祐子さん「百年の森ファンクラブ活動に参加して」の3つの実践事例発表がありました。それぞれ、地域の素材（施設、環境、教育資源）を活かした、いわゆる博物館活動への取り組みについて、元気を得た報告でした。さらに倶知安町教育委員会岡崎克則さんから「羊蹄山高山植物帯への無届け植栽への対応」の報告があり、最近各地でさまざまな問題を誘発している自然環境保護の難しさに対応の在り方への問題提起がなされました。56名の参加がありました。翌日は、よいち水産博物館を中心に余市町内各施設の現地研修、さらに調査中の西崎山ストーンサークル群を見学し、全日程を終了しました。

（小川原脩記念美術館館長 矢吹俊男）

日本動物園水族館協会 北海道ブロック園館長会議報告

道内13の動物園及び水族館で組織される社団法人日本動物園水族館協会北海道ブロックの園館長会議は、毎年2回開催されます。

平成12年度の開催内容を報告いたします。

1 平成12年度第1回園館長会議

- (1) 日 時 平成12年8月30日～同31日
- (2) 会 場 広尾町「ホテル東陽館」会議室
- (3) 参加者 16名（全園館出席）
- (4) 議 題
 - ① 各園館の入園状況について
 - ② 社団法人日本動物園水族館協会北海道ブロック代表理事の選出について
 - ③ 動物保護団体への対応策について

2 平成12年度第2回園館長会議

- (1) 日 時 平成13年1月25日～26日
- (2) 会 場 札幌市「郵便貯金会館“メルパルク札幌”」会議室
- (3) 参加者 14名（2水族館欠席）

(4) 議 題

- ① 各園館の平成12年度事業報告及び平成13年度事業計画(案)について
 - ② 平成12年度社団法人日本動物園水族館協会中間理事会の報告について
 - ③ 「動物の保護及び管理に関する法律」一部改正法の概念及び「動物取扱業者に係る飼養施設の構造及び動物の管理の方法に関する基準」について
 - ④ その他
 - (ア) 平成14年度社団法人日本動物園水族館協会北海道ブロック各種会議等の開催地について
 - (イ) 第29回飼育技師資格認定試験について
 - (ウ) 理事会提出議題及び要望事項について
 - (エ) 中央省庁の改革に伴う「文部大臣」の名称変更について
 - (オ) 関東東北・北海道ブロック合同事務主任者会議の開催について
- (札幌市円山動物園 事務職員 山崎 勝)

北海道青少年科学館 連絡協議会の活動について

本年度の総会と第1回館長会議を平成12年4月に旭川市青少年科学館で開催しました。

事業報告、新年度の事業計画等を協議し、役員改選を行った後、釧路市青少年科学館の吉野政義さん（15年）を永年勤続・功労者として表彰を行いました。

視察は「旭川市博物館」の見学と、郊外に建つ白亜の「雪の美術館」を訪れましたが、参加者は美しい氷柱の回廊や展示品に見とれていました。

10月には、第36回職員研修会を帯広市児童会館で開催しました。実技研修では、物理・化学・生物・天文学の各実験室に分かれて、小学5年生の子どもたちと一緒に「化石のキーホルダー作り」や「砂時計作り」等の実験や制作に取り組みましたが、初めての経験者が多かったせいもあり大変に好評でした。

この後、環境問題が騒がれている中、「帯広市の環境教育」と題した講演が行われ、情報交換の場では、本年度の事業の取り組み状況を各館から発表したのち、「学校完全週休2日制にむけた取

り組みについて」及び「各館の人気事業について」の2テーマで各館から発表がなされ、質問や意見の交換のあと、引き続き、科学展示室及びプラネタリウムの見学を行いました。

視察研修は、環境教育機能を備えた廃棄物処理施設である帯広市の「くりりんセンター」を見学しました。この施設は、ごみ処理、環境学習、健康づくりが一緒にでき、又、焼却したごみの熱で発電をしており、周辺施設の電気をまかなうばかりか余った電気を売電しております。見学の皆さんは、焼却施設や大型・不燃ごみ処理施設の機能や実物を間近にして熱心に見学しておりました。

第2回の館長会議は平成12年11月に上砂川町無重力科学館で開催しました。この会議から新規に余市宇宙科学館が加盟され、又、全国科学館連携協議会事務局の有沢部長さんも出席されました。

会議では、今年度の館の利用状況及び情報提供等を協議し、本年度の事業を終了しました。

(北海道青少年科学館連絡協議会

会長 後藤聡明)

南茅部町大船C遺跡 速報展示室の活動と展望

平成8年度の発掘調査によって、縄文時代の大集落が確認された南茅部町大船C遺跡において、縄文文化への理解と学習への一助とすべく、平成12年4月に大船C遺跡速報展示室がオープンしました。

施設は木造平屋建で総面積約185㎡の小規模な施設ながら、ジオラマを中心とした大船C遺跡の紹介や国指定重要文化財の土偶（複製）をはじめ、町内の主な遺跡の紹介、町内から出土した350点もの復元土器の展示など6つのコーナーで構成しています。展示についてはまだ十分な内容ではありませんが、町内の遺跡から発見された最新情報を紹介するコーナーも設けているので、少しずつ充実させていきたいと考えています。

当展示室は遺跡と隣接しているため、深さ2.4mの大型住居跡などいくつかの遺構や発掘調査の様子を併せて見学することができます。道南の縄文文化をテーマにした施設として、少しでも縄文文化を直接感じてもらいたいと願っています。

オープンした平成12年度は、4月末から11月上旬までの開館期間に8,000人を超える見学者を数えました。公共交通機関が不便な立地ながら、過半数以上が町外からの見学者で、本州方面からもわざわざ見学に訪れる方もいます。

今後の展望としては、昨今の生涯学習のニーズに柔軟に対応するため、遺跡体験発掘や縄文土器作りなど体験型の事業を継続して実施するなど、これまで以上に縄文文化の普及に努めるとともに、縄文文化の情報発信の拠点として活動していきたいと考えています。

(南茅部町教育委員会)

埋蔵文化財調査室 福田裕二)



展示室内部

猿留山道の確認と保存活用

寛政11（1799）年に開削された山道が平成8（1996）年の調査で、えりも町山中に残っていることを初めて確信することができた。

猿留山道、再確認のきっかけは、町民と共に実施した植物調査であった。豊似湖から日高山脈の最南端豊似岳から伸びる稜線へ足を進めた際、かねてから聞いていた馬頭観音の石碑と、峠を通る山道の踏み分けをも確認した。参加していた町民から、「あの人は昔山仕事をしていたから知っているかも。」「通送していた人がいる。」などの情報をもとに、町民と共に聞き込み調査や現地調査をおこなった。

そして、猿留山道に寛政11年に開削された元来の道と、明治17（1884）年に開削された新道があり、共に一部であるが残存していることが明らかになった。その後、猿留山道の歴史や当時の時代背景に詳しい講師による講演会を開催することにより、町民の関心も高まってきた。

明治29（1896）年発行、陸地測量部の地形図を

たよりに、初冬や融雪期に山道の確認調査を実施した。残された山道の一部は道幅が広く、昭和期に造材に利用され、整備された区間もあるが、法面補強と下草刈りをされるだけで、地形図と一致する路線を確認することができた。

平成12年には、日高支庁、北海道浦河道有林管理センター、様似町と共催で「日高の山道」シンポジウムを開催し、様似山道・猿留山道・ルベシベツ山道の歴史にスポットを当てることができた。

今後は、猿留山道をえりも町文化財に指定し、町民や関係機関と協力し、ボランティアの保存活用を進めていく予定である。

(えりも町郷土資料館 学芸員 中岡利泰)



猿留山道(沼見峠近く 豊似湖を望みながら行く)

大雪山国立公園 層雲峡ビジターセンター

昭和35年に開館して以来、多くの人々に親しまれてきた層雲峡博物館が、この度、新たに改築され上記名称で昨年6月20日にオープンしました。

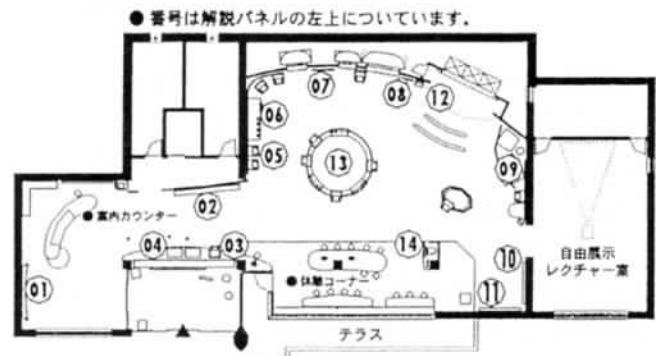
このセンターは、大雪山国立公園の素晴らしい自然を紹介する施設で、自然からのメッセージをジオラマやコンピューター情報検索、ハイビジョン映像などで紹介しています。またリアルタイムな登山情報ガイドや自然観察コースなどの自然情報も提供しています。

なお研究機関としての調査研究などの機能もこれまでどうり継続いたします。

■展示コーナーと解説パネルの配置図

01：カムイミタラ、02：大雪山国立公園へようこそ、03：自然観察コース、04：登山情報ガイド、05：広大なお花畑、06：氷期の生証人、07：構造土、08：柱状節理、09：人と動物、10：森の変遷、11：環境共生、12：大雪山と層雲峡峡谷（ハイビジョン映像）、13：地形ジオラマ、14：ビデオライブラリー。

コーナーと解説パネルの配置図



(層雲峡ビジターセンター長 保田信紀)

網走管内博物館連絡協議会 平成12年度研修会報告(北見・斜里)

網走管内博物館連絡協議会では、総括研修(北見市)と個別研修(各地区持ち回り)の2回の研修を毎年行っております。

北網圏北見文化センターで8月22日開催された総括研修は、「北見地方の帰化植物の現状」と題して、環境庁絶滅危惧植物調査員の松木恒男氏の講演と、同時開催中の美術展「東海道五十三次と浮世絵名品展」のギャラリーツアーを行ない、24名の参加がありました。

松木氏の講演は、自然保護や環境問題が厳しく問われている状況をふまえて、帰化植物の繁殖パターンや、環境との適応状況など、彼の豊富な植物調査をもとに話された。

ギャラリーツアーでは、本物の浮世絵を見る機会の少ない中、当センターの齋藤学芸員による浮世絵の魅力や時代背景などの解説で鑑賞した。

個別研修は10月5日～6日の2日間にわたり、斜里町立知床博物館で22名の参加で開催された。

初日は研修テーマ『地方博物館のホームページ

展開戦略』と題して、当博物館の宇仁学芸員による「インターネットに接続する機器について」の解説、講演が有限会社ノア代表の中江拓司氏による「オホーツク地域のインターネットの現状と将来」、そして実習が当博物館の増田学芸員による「館内ツアー・知床博物館のコンピューター展示」、宇仁学芸員による「知床博物館のホームページと作成実習」を行なった。何れも経験からのお話で、非常に参考になるところが多かったとともに、複数の学芸員のいない博物館では、かなりきついハードルにも思えた。

2日目は『斜里町の縄文遺跡と近代化遺産』をテーマに、北海道指定史跡「斜里朱円環状土籬」、文化庁登録有形文化財「越川橋梁」、そして現在発掘調査中の「大栄1遺跡」を斜里町郷土研究会の河村淳史氏、当博物館の松田学芸員、宇仁学芸員の案内で見学した。特に河村氏は「斜里朱円環状土籬」の発掘調査に参加しており、発掘当時の様子を詳しく伺う事ができ、松田、宇仁両学芸員の現場での詳細な説明とともに、新たな知見や理解を深めることができた。

(網走管内博物館連絡協議会 広報担当幹事

紋別市立郷土博物館 業務係長 佐藤和利)

会報誌「道央MUSEUMニュース」を 担当して

石狩・後志・空知地区博物館等連絡協議会が発足して3年目の中盤を過ぎようとしている。加盟館園60からなる本会は、道博協からの交付金のみで細々とではあるが地道に活動を行っている。

手刷りの会報誌「道央MUSEUMニュース」は、年3回の発行を目標に第6号（平成12年11月18日付）まで刊行した。内容は、多岐にわたって、編集方針は一貫しているとは言えないが、実際に事業に関わっている方からの活動を、企画者として、実施者として文字にさせていただくことが基本である。身近な話題を中心に、それぞれの目を通した内容で、毎回、編集者（事務局）も原稿が届くのを楽しみにしている。「内容は、何でも良い。お任せします。」という茫然とした投げかけに対して、いろいろな展開があり、こういう依頼も悪くないのかもしれない。受けた方は、かなり頭を悩ませているのではないかと、とは思うのだが、事務局の考えることだけでは幅の広がり限界があるので、これからも続けさせていただこうと考えている。

ている。

これまでにいただいた原稿には、近年利用者側から求められることの多くなった体験学習のこととその展開について、2002年本格的に開始する「総合的な学習の時間」への取り組みや学校サイドからの博物館への期待、これから新しくつくろうとしている博物館の近況報告、博物館のボランティアのこと、等々。また、刊行の時期に合わせた季節色豊かなものもある。

現在は、来る3月発行予定の第7号の準備に取りかかったところで、今回も、どんな記事が届くのか楽しみだ。サロンのような心地よさと、柔らかさの中にも芯のある、そんな会報誌「道央MUSEUMニュース」をお届けしたいと思っている。お問い合わせは、石狩・後志・空知地区博物館等連絡協議会事務局（北海道開拓の村・学芸課）へ。

（北海道開拓の村
学芸員 黒川 郁）



蝦夷通辞が残した貴重な資料 —加賀家文書館—

平成12年7月7日（金）別海町郷土資料館付属施設加賀家文書館が開館しました。平成10年に加賀家7代目にあたる加賀實留男氏から、江戸時代末期に当町の野付半島などで活躍した加賀家の一族が残した「加賀家文書」と呼ばれる古文書資料など約1,000点が寄託され、資料の保存と教育的活用をはかるために建設されました。

「加賀家文書」の殆どは、3代目の伝蔵が書き残したもので、文化元（1806）年に秋田県八森町で生まれ、15歳で蝦夷地に渡り釧路・根室地方、そして本町の野付半島などでアイヌ語の通辞（通訳）として働いていました。一生の大半を蝦夷地で過ごし、後年は大通辞、場所支配人として活躍しました。文書の内容は、場所請負人の場所支配に関するものが多く、現地通辞でなければ記録できないものばかりです。

「加賀家文書」を7つのテーマにまとめ映像コーナー・加賀家文書ライブラリー・収蔵展示室を設け、資料をデータベース化し、原文・活字現

代語訳でご覧になることができますので、お近くにお越しの際はお立ち寄り下さい。

開館時間 午前9時から午後5時

（入館は午後4時30分まで）

休館日 第2・第4月曜日、第1・3・5土曜日・日曜日、国民の祝日
12/29～1/6

観覧料 一般300円、高校生200円、
小中学生100円

（10名以上団体料金有）

問い合わせ 〒086-0201 別海町別海宮舞町29

電話 01537-5-2473

（別海町郷土資料館 学芸員 石渡一人）



館園紹介

西村計雄記念美術館

北海道の南西部、人口約7,400の農業のまち、共和町。西村計雄記念美術館は、平成7年、共和町出身の画家である西村計雄氏から自作絵画103点の寄贈を受け、「地域社会の芸術、文化意識の向上と、町民の郷土愛、誇りある郷土意識を助長するにふさわしい施設」（「西村計雄美術館建設基本構想」）として設置されることとなり、平成10年初夏に着工し、翌11年9月に竣工、同年11月1日に開館いたしました。運営管理は共和町教育委員会が行い、館長1名（非常勤）、町職員2名（事務係長1、学芸員1）、臨時職員2名のスタッフが業務に当たっています。

西村計雄氏は、1909（明治42）年、小澤村（現共和町小沢）に生まれました。幼少の頃から画家を志し、東京美術学校（現東京芸術大学）に進学、藤島武二教授に師事します。美術学校卒業後も東京で制作を続け、1943年には文展で特選。1951年、単身で渡仏し、画商・カーンワイラー氏との出会いを端緒として、パリを拠点に活躍しました。1992年には東京にアトリエを構え、以後2000年12月4日の死の直前まで、東京のアトリエで描き続けました。当館では、美術学校時代から晩年までの画業の変遷を示す、油彩画を中心として約150点を所蔵しています。

西村氏が「いつも頭の中にある」という故郷の、豊かな緑の森と田園風景を見渡す丘陵地に、この美術館はあります。建築設計は、プロポーザル方式により選定された株式会社都市設計研究所によるもので、鉄筋コンクリート造地下1階地上2階建て。「さまざまな人が訪れ、交流する場」というコンセプトに基づき、穏やかに傾斜した広い敷地全体が公園として整備されています。建物の上下にはひろばがもうけられ、ヨーロッパの石畳をイメージした散歩道（「芸術の小路」）が、建物をくぐり抜けるようにしてふたつのひろばを結んでいます。

建物の最大の特徴であるガラスボックス内は、総ガラス張りの側壁に沿って回廊になっており、ニセコ連峰や積丹の山なみなど、四季折々に表情を変える雄大な風景が一望できます。ガラスボックスから、柔らかな曲線を描きながら羽根のよう

にせり出した部分に常設展示室（274㎡）と特別展示室（240㎡）があり、所蔵作品を中心とした約60点をさまざまな切り口からご紹介しています。このほか、西村氏が死の直前まで制作を続けた東京のアトリエを再現した「復元アトリエ」（47㎡）、映像資料を7つのメニューから選択してご覧いただける「資料コーナー」などがあり、画家をはぐくんだ風土のなかで、西村氏の作品と人物を存分に味わっていただけるよう配慮されています。

地域の方々に美術や美術館に親しみ、楽しんでいただくためのプログラムも、積極的に実施しています。平成12年度には、小学生を対象に「夏休み！自由研究応援部隊」と題し、星空観察や昆虫採集など美術館周辺の環境を活かした3日間のプログラムを実施したほか、1930年代に描かれた西村氏の風景画のモチーフとなった場所を探る『「描かれた場所」探偵団』を不定期で実施しています。また、冬期間は親子向けの美術館探検会を開催するなど、「親しみにくい」と思われがちな美術館のイメージを打破すべく、さまざまな企画を試みています。今後も、このような体験型のプログラムを中心に、さまざまな人が交流する場を継続して提供していきたいと考えています。

後志の6町村に点在する7つの美術館・文学館を結んだ「しりべしミュージアムロード」の加盟各館と連携したプログラムづくりも、さらに進めたい課題のひとつです。「しりべしミュージアムロード」はこれまで、とくに観光の側面が注目されてきましたが、平成12年度からは「後志地区学芸員連絡協議会」が正式に発足し、学芸面での連携も今後さらに強化されてきています。このような、他館とのネットワークや、学校との連携を活かし、この地域ならではの魅力ある活動をどのように展開していくことができるのか。そのための模索は、はじまったばかりです。

西村計雄記念美術館のホームページ

<http://www.tokeidai.co.jp/musee/>

（西村計雄記念美術館 学芸員 南部亜矢子）



館・園の主な展覧会と普及事業

(2001年4月～2001年6月)

石狩

- 江別市セラミックアートセンター(TEL:011-385-1004)
4.28～5.20「ティータイムの風景」
- 札幌芸術の森(TEL:011-591-0090)
4.1～5.27「四谷シモン 人形愛」
6.3～7.15「砂沢ピッキ展」
- 北海道開拓記念館(TEL:011-898-0456)
4.28～5.27 テーマ展「開拓使とエゾオオカミ」
6.15～8.15 特別展「ヤマが歩んだ近代」
- 北海道開拓の村(TEL:011-898-2692)
5.27「むらの活動写真」
- 北海道立文学館(TEL:011-511-7655)
4.28～6.10「100年目の小熊秀雄」
- 北海道立近代美術館(TEL:011-644-6881)
4.21～7.1「エジプト展」
- 北海道立三岸好太郎美術館(TEL:011-644-8901)
4.1～5.20「三岸好太郎の世界モダニストの軌跡」
5.25～7.8「個人美術館散歩 7人の洋画家」

渡島

- 市立函館博物館(TEL:0138-23-5480)
5.12, 5.20, 5.25, 6.9, 6.10, 6.23 講座
「昔の函館を見よう」「蓄音機を鳴らしてみよう」ほか
6.2～7.1 特別企画展「よみがえる北の中・近世」
- 北海道立函館美術館(TEL:0138-56-6311)
4.15～5.17「さよなら20世紀」
6.5～7.22「日本の美とこころ」
- 江差追分会館(TEL:01395-2-0920)
1.6～12.30「初代浜田喜一郎展」
- 江差町郷土資料館(TEL:01395-2-1047)
5.6～5.27(日曜日)「古文書解説講座 初級」

後志

- 有島記念館(TEL:0136-44-3245)
5.26～6.8「第3会ニセコ尻別川美術館」
6.16～7.6「第13回有島青少年絵画展」
- 北一ヴェネツィア美術館(TEL:0134-33-1717)
4.13～7.14「仮面とカーニバル展」
- 小樽市青少年科学技術館(TEL:0134-22-0031)
5.3～5.5「科学で遊ぼう ゴールデンウィーク！」
- 小樽市博物館(TEL:0134-33-2439)
4.22, 6.24 北海道近代史講座
5.12～5.13, 6.16～6.17 おたる自然講座
- おたる水族館(TEL:0134-33-1400)
3.24～5.31「帰化生物展 ALIEN(エイリアン)」
- 黒松内町プナセンター(TEL:0136-72-4411)
4.19, 5.17, 6.21「学芸員こばなし」ほか

空知

- 砂川市郷土資料館(TEL:0125-52-2339)
4.1～4.28「新着資料展」

6.1～7.8「砂川・見て知って!!」

- 滝川美術自然史館(TEL:0125-23-0502)
4.28～5.1「テレビン 強制収容所の若い画家たち」展
6.2～7.11「黒百合会の画家たち」
- 美唄市郷土史料館(TEL:01266-2-1110)
3.28～4.9「北浦展」その他展覧会多数

上川

- 旭川市青少年科学館(TEL:0166-22-4171)
5.23～6.24「かたちと数のワンダーランド」
- 士別市立博物館(TEL:01652-2-3320)
4.28～5.27「セピア色の世界～士別の音」
- 下川町ふるさと交流館(TEL:01655-4-2526)
4.1～4.8 道北地区博物館等連絡協議会巡回展「北の野生」
- 中原悌二郎記念旭川市彫刻美術館(TEL:0166-52-0033)
4.7～5.13, 5.19～7.1「日本近代彫刻の流れ」
- 富良野市郷土館(TEL:0167-22-3864)
5.10～5.22 第13回巡回展「北の野生」
5.13, 6.10「観察会」

網走

- 美幌博物館(TEL:01527-2-2160)
3.18～5.27「発掘資料展」
- 北海道立オホーツク流氷科学センター(TEL:01582-3-5400)
4.21～5.6「オホーツクの四季」ほか

胆振

- 伊達噴火湾縄文フェスタ(TEL:0142-21-5213)
4.28「史跡北黄金貝塚公園オープン」ほか
- 登別市郷土資料館(TEL:0143-88-1339)
5.26「御衣黄祭り」
- 室蘭市民俗資料館(TEL:0143-59-4922)
6.3「民族資料館フェスティバル」
6.2～7.1「なつかしの街かど 看板のいろいろ展」

十勝

- 神田日勝記念館(TEL:01566-6-1555)
4.28～5.8「夭折画家の系譜展」 6.17「蕪惣祭」
- 北海道立帯広美術館(TEL:0155-22-6963)
4.6～5.16「帯広美術館コレクション選集」
- 本別町歴史民俗資料館(TEL:01562-2-2142)
6.1～6.30「十勝の植物 細密画展」
- 足寄動物化石博物館(TEL:01562-5-9100)
4.27～5.18「足寄動物化石第1標本発見25周年展」

釧路

- 釧路市青少年科学館(TEL:0154-41-6225)
5.3～5.6「木のおもちゃ展」
- 北海道立釧路芸術館(TEL:0154-23-2381)
4.28～6.10「風景の向こうに」

事務局日誌 (平成12年11月～平成13年3月)

- 11月30日 第38回北海道博物館大会報告書刊行
- 12月19日 平成13年度道博協表彰候補者の推薦
- 3月27日 平成12年度第3回役員会開催(札幌市)